



Interview

(財)水沢環境公社
公益業務課

小野寺 文夫 課長(57)

ごみを収集する際には危険が伴います。8月の燃えないごみの収集時に、ごみ収集車の車両火災が発生しました。スプレー缶やカセットボンベなどに残っていたガスへの引火が、原因と考えられます。

ごみ収集の際、リサイクル可能なものまで、ごみとして捨てられているケースも見受けられます。ごみの出し方や収集場所の管理など、きちんとルールを守るよう家庭や地域で常に確認していただきたいですね。また、草木をごみとして出す場合は、2~3日乾燥させることで、その量はかなり減りますよ。



市では「燃えるごみ」「燃



ごみ収集区分は!?

などの変化も相まってごみの排出量が増えていると考えられます。一方、市で行っている資源物の収集量は近年減少し、廃棄物の総量から見た資源物の割合のリサイクル率は低下しています(グラフ3)。



リサイクルでごみの減量を!

えない「ごみ」「資源物」に分類して収集を行っています。「燃えるごみ」「燃えないごみ」は、市指定のごみ袋を使用し、各家庭で責任を持って収集場所に出しましょう。また、収集場所ごとにそれぞれの収集日が決まっているので、日時や分別のルールを守ってごみを出すようお願いいたします。

市では現在、リサイクルステーションで資源物の回収を行っています。また、リサイクルの集団回収に対しての奨励金交付や廃食用油の回収も実施し、ごみの減量に向けた取り組みを進めています(表1)。

リサイクルはごみの減量に向けた一つの手段であり、各家庭の意識の持ちようによって効果が大きく異なります。その積み重ねが大きな効果につながりますので、積極的に取り組むように心掛けましょう。

■表1 本市におけるリサイクルの推進

リサイクルステーションでの回収

アルミ缶や新聞紙、プラスチック類などは、ごみとして出すのではなく、リサイクル(再資源化)できるよう、分別して“資源物”として出しましょう。

◇いつどこでやってるの?

平日=各地域のリサイクルステーション(午前7時~8時半)

※場所や収集日は地域によって異なるため要確認

日曜日=日曜リサイクルステーション(午前中のみ)

水沢(6カ所)、江刺(1カ所)、前沢(4カ所)、胆沢(4カ所)、衣川(1カ所)のうち、都合の良い場所に出すことができます。

※場所や開設日、開設時間はステーションによって異なるため要確認

◇どんなものを集めるの?

アルミ缶、スチール缶、ビン類(白系・茶系・その他)、段ボール、新聞紙、その他紙、白色トレイ、その他プラスチックに区分して収集します。

資源物集団回収の実践

リサイクルステーションでの回収のほか、子供会やスポーツ少年団、町内会などで資源物の集団回収に取り組んでみま

せんか。資源物の売却代金に加えて、市から奨励金が交付されます。

◇集めた資源物はどうすればいいの?

市内のリサイクル業者に持ち込んでください。

◇市の奨励金は?

回収した資源物1kg当たり3円を交付しています。

◇奨励金申請の手続きは?

リサイクル業者からの売掛伝票と団体の通帳・印鑑を持参し、本庁生活環境課または総合支所市民環境課にお越しください。

◇奨励金交付実績は?

24年度実績...224団体、694回、1,371ト、4,112,031円

25年度実績...230団体、697回、1,319ト、3,957,453円

廃食用油の回収

回収した廃食用油は、BDF(バイオディーゼル燃料)として再利用しています。

◇どこで回収しているの?

本庁および各総合支所 ※開庁時のみ

◇回収実績は?

24年度実績...9,307ℓ 25年度実績...9,287ℓ

ごみ焼却施設で処理した後に発生する灰は、胆江地区最終処分場に1日当たり約15ト運び入れています。その最終処分場は、23年3月の供用開始から15年間利用する計画です。今後、さらにごみが増えるとその期間が短くなり、予定より早く新たな施設が必要になります。また、焼却施設では1日約120トのごみを処理。焼却施設や不燃ごみ・粗大ごみの処理施設は、施設を修繕しながら少しでも長く維持できるようにしています。

ごみ処理には、さまざまな面で多くの経費を要します。ごみを減量できれば、施設を長く使え、経費の削減につながるのです。それぞれ家庭における理解がとて重要になりますね。

Interview



奥州金ヶ崎行政事務組合
施設管理課

佐藤 金治 主幹(60)

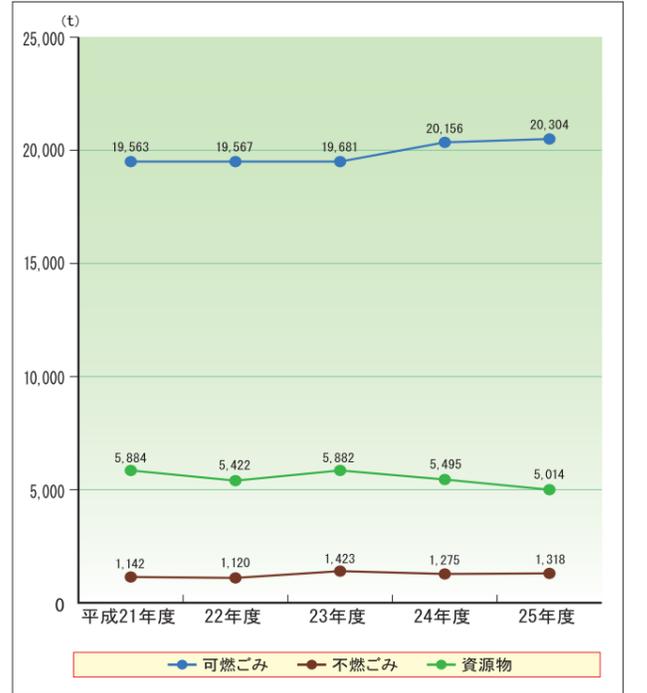
まずは本市の現状をみてみよう!

各家庭から排出される可燃ごみや不燃ごみは、人口が減少しているにも関わらず、近年、市全体でその排出量が増加傾向にあります。1人当たり換算したごみの量も、市内全ての区で増えています(グラフ1、2)。

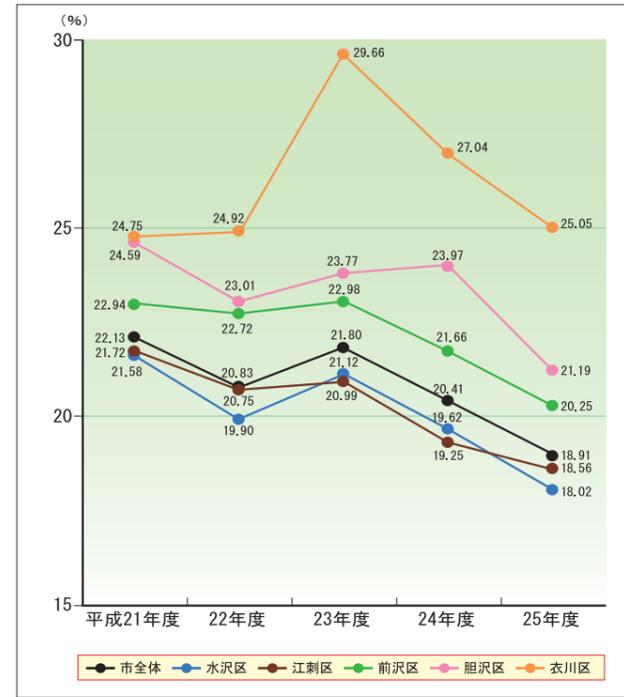


り、各家庭の生活必需品が全体として増えていることが挙げられます。また、スーパーや大型量販店の進出により、商品の少量化や小分けによる梱包など、販売方法が近代化。使い捨て商品の増加や、家具の買い替え期間が短縮するなど消費意識の変化も大きく影響しています。これら生活形態の変化が、ごみの減量につながらない原因の一つと考えられます。さらに、ごみの野焼きの禁止や食品残さを肥料に活用しないなど、社会情勢

■グラフ1 市全体の家庭系ごみの排出量(年間)



■グラフ3 区ごとのリサイクル率



■グラフ2 1日1人あたりのごみ(可燃+不燃)の量

